

令和6年11月18日（月） 第8回 佐久の先人検討委員会 会議録（要約）

【会議事項】

- （1）新海節生委員第1回原稿審議について（省略）
- （2）柳澤礼子委員第1回原稿審議について（省略）
- （3）原稿審議のスケジュール等について

【事務局説明】

【質疑、意見】

**委員長**：外部の方は委員会の雰囲気はわからないから、時間かかると思うんですね。

**委員**：4月までに出すしかないですか。

**副委員長**：出来たところまでで出せば良い。

**委員長**：そうです。他の方も完成稿じゃなくても、止むを得ない。どんなに書いてもいろいろな意見がありますから。今日もせっかく書いてきたお2人に好き勝手言って申し訳ありません。原稿を審議する委員会ですから、むしろ外部の方の原稿を見たときに我々が意見を言って、雰囲気も含めて事務局が伝えていたのが、今までの失敗の例ですから。今日はここにいるから、直接どういう意味合いで言われたかの雰囲気も分かりますが、外部の方も可能であればオンラインでも出席していただいたほうがいい。前にも問題になったことがあったので。

**委員**：新海委員の原稿も柳澤委員の原稿もこうやって書いて下さると、こういう偉人だったということがわかって面白い。

**委員**：4月という目安で、出せそうなら早めに出しても良いですかね。

**委員長**：他の方がいいがでしょうかね、

**委員**：今日の話聞いていても比田井弾右衛門の人となりは全く分からないから困る。それと代表者で事業やっているから、自分が手を出して本当にやっているのかどうかとかも重要です。

**委員長**：昔の時代に関して歴史家は見てきたような話をする。むしろ同時代の方が当事者がいるから注意が必要。そんな人じゃないと言われる場合がある。

**委員**：本当に事業の流れや業績だけを追って、書いていくしか方法がない。

**委員**：私は1月にしてください。関係者もないし、江戸時代のことで何の先行研究というか、文章の資料を集めただけですけれども1月で良いですか。

**委員長**：では大工原委員は1月でお願いします。市川委員は2月で。

**市川委員**：全然、いろいろあって手がつけられないんだけど、もういつと決めないと仕事にならないので、2月に何とか完全にはできないと思うんだけど、必要な何か形を持っていきたいと思います。

**事務局**：委員さんに出せそうな方がいらっしゃらなければ。

**委員長**：次回は紹介文をチェックする。紹介文については1人1人しっかりと。これは式典の時に発表もしなくてはいけないので。我々としては、15名全員について、この表題で良いのか、リード文はこれが足りないのではということを確認する予定でいまして、次回原稿審議はありません。もし、外部の方でいるようであれば。

**事務局**：今のところはいません。

**委員長**：田澤副委員長は2月で。4月に福島委員と、4月ぐらいからは外部の方も少しずつ出てくる感じですかね。

**委員**：内定者の紹介文、2番目の伴野友彦なんですが、表題が江戸後期の心学者というのが、西洋の神学じゃなくて、心という字です。それから、伴野友彦はこの「伴」が使ってあるのと、「友」と両方あるんですが、大体は「伴」の方が多いのですが、資料によっては「友」の方が使ってあるものもあるので、紹介するときにはどうしたら良いですか。

**委員長**：この方は、親族の情報も結局はわからなかった。親族がいれば、どちらかはわかるかもしれないが。

**委員**：神職の方ではこの伴が使ってある方が多いんですけど、いろんな昔の一緒に書いてあるものを見ると友で書いてあるのもあるし、心学の通知なんか友が使ってある場合もあり、どちらかに統一しなければとも思います。

**委員**：最初に登場するところに、判断がつかないときには、括弧で友野と表記されることもあるというふうに入れておけば良いのではないかな。